社会系（地理歴史）
カリキュラムデザイン論

論文：子どもの授業評価を活用する
授業理論検討方法の開発

プレゼン担当：1班

論文の構成

第Ⅰ章
- 問題の所在（この研究でのテーマ）

第Ⅱ章
- 子どもの授業評価を活用する授業理論検討方法の開発（どのような授業をしていくのか）

第Ⅲ章
- 子どもの授業評価を活用した授業理論検討の実施（第Ⅱ章で考えたことを実際にやってみた）

第Ⅳ章
- 研究の意義と課題（第Ⅲ章の内容を踏まえて、この研究でできたこととこれからの研究課題）

Ⅰ、問題の所在

☆これまでの授業開発研究の例

理論批判学習	（教師が選択した理論を生徒が批判的に吟味・検証）
解釈批判学習	（特定の歴史解釈を生徒が批判的に吟味・検証）
仮説吟味学習	（生徒各自の仮説を批判的に吟味し、時代の解釈・評価）

現行社会科の現状を改革する授業理論の妥当性を
授業モデルや評価問題の事実に即して吟味する方法が
具体的に提示された

しかし！！

今日やったことは
実生活で役立つの？

そもそも、なぜ
社会科を学ぶの？

従来の研究（授業開発）では、
実証性を高めるのは難しいのではないか
→授業の意義理解にかかわる学習の事実を確定できないから

実践が教科目標に対して果たす効果の有り様を分析できず、
授業理論の原理的な有効性を吟味できない。

ということで……？

テーマ

- 授業理論の原理的な有効性について吟味する必要があるのではないか？？

方法

- 構造主義社会科学習を通して子どもの授業評価を活用して授業理論を検討するという授業方法（具体例は第Ⅱ章以降）

目的

- 授業開発研究の実証性をより高める方策を具体的に示す

Ⅱ、子どもの授業評価を活用する授業理論検討の方法

今回は、構築主義社会科学習で検討する。

★構築主義社会科学習とは・・・

地理的空間・歴史的記憶・社会的規範の編成が争点となる社会問題を教材にすることによって、地理や歴史、社会の現実を再編成させる授業理論。

様々な文化的背景をもつ人々の価値観に開かれた公共性の形成という概念に教科の学習意義を見出させることによって、価値多元社会に相応しい国家・社会の形成者を育成することを目指す。

構築主義社会科学習の単元
「性同一性障害を考える」

第一段階 子どもに論争点を把握させる	S社解雇事件について知らせ、性同一性障害の男性の女装出勤が懲戒解雇処分に値するか、自分の意見を表明させる。 性同一性障害問題という社会問題についての自分の考えを意識化させる。
第二段階 社会問題の価値観対立を子どもに分析させる	【前半】スペインの例（多元的は性秩序） ↕ 【後半】日本の例（二元的な性秩序）
第三段階 社会問題に対する自分の意見を再形成させる	拘置所調髪事件を題材に、性秩序という社会の現実のよりよいあり方を議論させる。

構築主義社会科学習の単元の評価計画
「性同一性障害を考える」

第一段階 教科目標の習得	1時間 単元実施前	社会科は「国民が選挙で選んだ代表者に、国民の人権を大切にする政治を行わせるチカラ（知識・技能・態度）を身に付ける」教科であることを理解させる。
第二段階 教科目標の活用	数分間 単元終了直後	「性同一性障害を考える」の授業はチカラを身に付けていく上で役に立つか考えさせる。
第三段階 教科目標の探究	1時間 単元実施後	他者の意見も聞き、改めて授業評価を行い、第一段階で習得した社会科の定義に修正を加えた方がよいと思うか考えさせる。また、その修正はどのようなものか考えさせる。

授業の構成と評価の関連性

構成

①論争点の把握（社会問題に対する自分の考えを意識化）

②価値観の分析（①をもとにして社会問題を吟味）

③意見の再形成（社会問題に対する自分の考えを再構築）

評価

①教科目標の習得（社会科の目標を意識化）

②教科目標の活用（①をもとにして社会科の授業を吟味）

③教科目標の探究（社会科の目標を再定義）

以上のような評価計画に実施によって、子どもが単元の学習意義を多様な価値観に開かれた公共性の形成という概念に見出しているかどうか、確かめることができる。

＝構築主義社会科学習が教科目標に対して効果的かどうか分析できる。

Ⅲ、子どもの授業評価を活用した授業理論検討の実施

ここではⅡの理論を熊本大学教育学部附属中の3年生で実施。

～実験授業の構成～（5時間）

「性同一性所外問題を考える」

1、社会科の目的を考える

2、性同一性障害問題を考える①

3、性同一性障害問題を考える②

4、性同一性障害問題を考える③

5、授業を評価しよう

評価活動を実施

～評価活動の質問内容～

4、性同一性障害問題を考える③

国民が選挙で選んだ代表者に国民の人権を大切にする政治を行わせる上で、本単元の学習は役に立つと思いましたか。（研究者の意図①）

5、授業を評価しよう

単元の学習を踏まえた場合、社会科の定義で見直した方がよい点はあるだろうか。（研究者の意図②）

国民が選挙で選んだ代表者に、国民の人権を大切にする政治を行わせる知識・技能・態度を身に付ける教科

評価活動の結果の分析は3年3組で行う。

研究者の意図①

4、国民が選挙で選んだ代表者に国民の人権を大切にする政治を行わせる上で、本単元の学習は役に立つと思いましたか。

～分析する上での評価基準～

其の一「主権者意識」
→国民の政治に関する意識の高まり
（国民一人一人が政治を動かしていくという認識）

其の二「個人の尊重」
→国民のための政治に関する意識の高まり
（政治家が、国民・個人の事を意識して政治をしている）

其の三「権力の操縦意識」
→国民による政治に関する意識の高まり
（国民が政治家に自分たちの代わりに政治をさせている）

この基準で分析することによって、「構築主義社会科学習の原理的な有効性」を検討し、上記の**3つの基準の獲得を目指す！**

研究者の意図①についての結果分析

以上のことを踏まえて表を見てみよう！

	主権者意識	個人の尊重	権力の操縦
合計人数	23人	25人	12人
	65.7%	71.4%	34.3%

※3年3組35人の単元の有効性に関する評価結果

この表は、表5にある生徒が答えた理由を元に、教師側がどの評価基準を満たしているかを分類している。
「性同一性障害」の授業を通してどのような成果が得られたのか。

評価できる点

生徒の「主権者意識」や「個人の尊重意識」を高める上で大きな効果を発揮する授業であるということができる。

2つの活動の課程

〇主権者意識
1、社会問題を取り上げる
2、対応策を考える・生徒同士で話し合う
3、社会問題を身近に（自分のことの様に）考えることができる
4、**主権者意識が高まる**

〇個人の尊重意識
1、社会問題を取り上げる
2、大体が少数派の権利保障が問題になる
3、学習を通して少数派の価値観を学び、大衆派の価値観を反省させる
4、**個人の尊重意識が高まる**

課題点

生徒の「**権力の操縦意識**」を高めることができなかった点が問題がある。

なぜ問題なのか？

政府の活動を制御したり支持したりする役割を果たす公共性という言語空間の担い手になるためには、「権力の操縦意識」が必要であるから。

どういう授業だったから高められなかったのか？

〇権力の操縦意識
1、社会問題を取り上げて、対応策を考える
2、施設の性秩序の在り方について意見を形成させた
3、**施設の性秩序と国政との関わり**を見出すことができなかった
4、**権力の操縦意識を高めることができなかった**

研究者の意図②

5、単元の学習を踏まえた場合、社会科の定義で見直した方がよい点はあるだろうか。

子どもたちに見てもらう定義は・・・

「国民が選挙で選んだ代表者に、国民の人権を大切にする政治を行わせる知識・技能・態度を身に付ける教科」

である。

この定義を見直しを行うことで、教員の定着させたい能力が身についているかどうかを生徒が評価することによって確認することができる！

Q：どこに修正が必要か？

修正箇所	国民が	選挙で選んだ	代表者に	国民の	人権を大切にする	政治を行わせる	知識技能態度
合計人数	0人	4人	1人	3人	3人	14人	2人
	0.0%	17.4%	4.5%	13.6%	13.6%	63.6%	9.1%

※　定義の修正が必要であると答えたのが3年3組の35人中23人（全体の65.7%）

A：修正点は次の2点

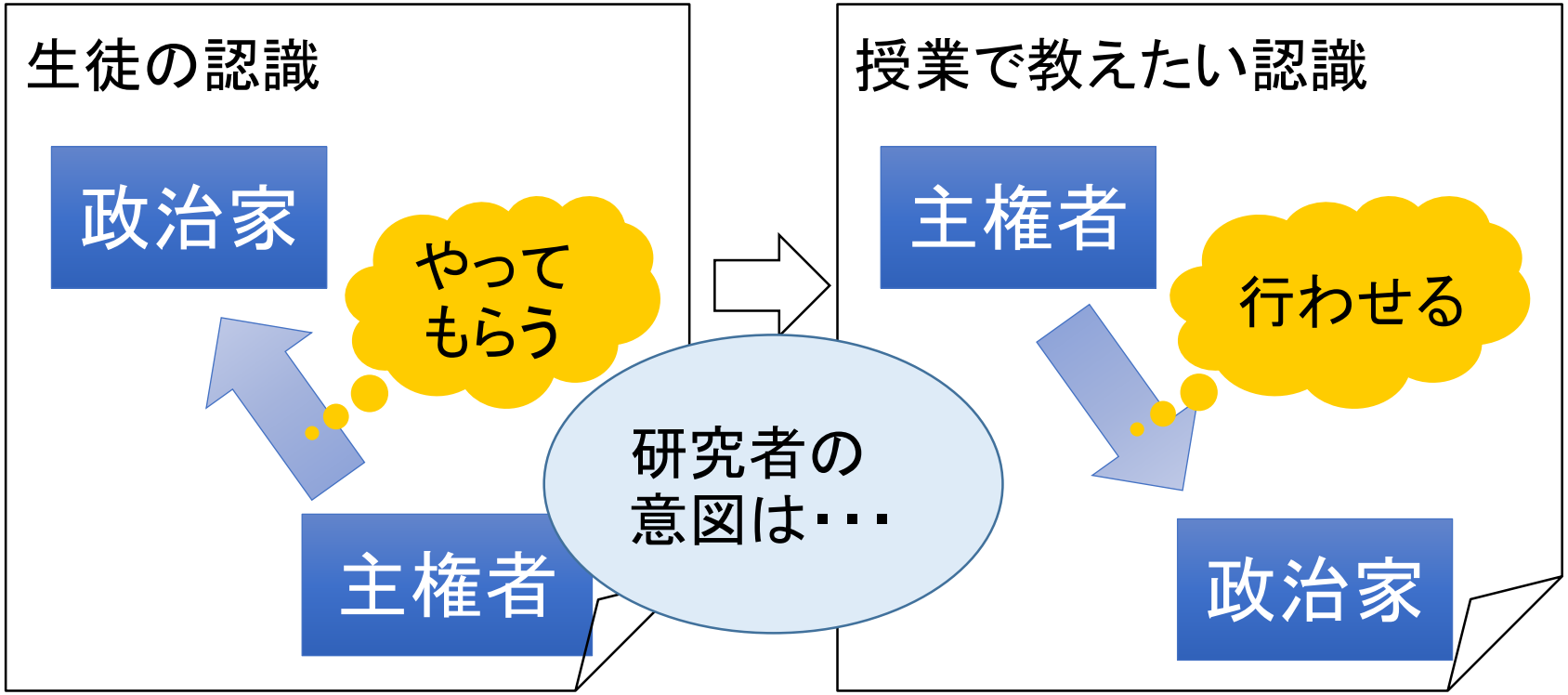
1、「政治を行わせる」（生徒が重視しているところ）

生徒は修正するべきと答えた人が多かったが、筆者は変更する必要がないと考えている。

2、「国民の」（研究者が重視しているところ）

社会的少数派が含まれないニュアンスのため、「全ての国民」と変えた方がよい。

1、「政治を行わせる」という認識



生徒の認識と授業で教えたい認識にはズレがある！！
→主権在民の考え方がうまく理解されていない。

2、「国民」という認識

「国民」の意味は次の2つがある。

1、その国に属し、国家を構成する人民。その国の国籍を持つ人。（日本国語大辞典）
→national,citizenの意味をもつ。

2、何らかの共通属性を根拠にしてまとまった広域の政治的共同体のこと
→nationの意味をもつ。

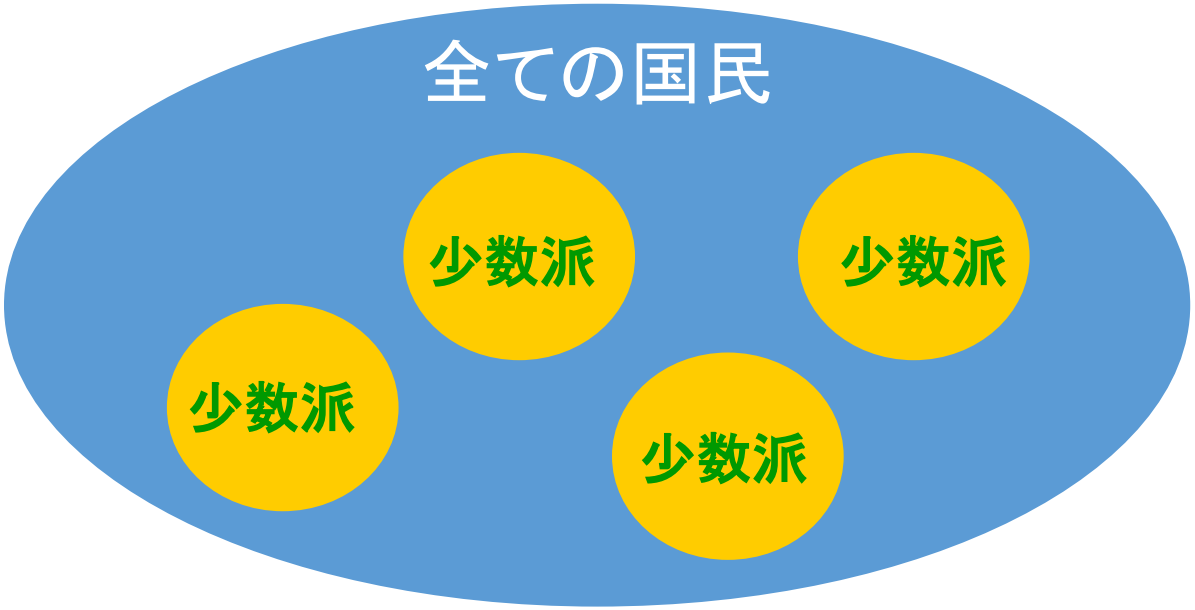
筆者の考える「国民」

「国民」とは

「国民」と表現すると

共通属性から外れる人を差別するという認識がある

「全て国民」とは



「全ての国民」とすると、少数派も含まれるので
差別のない表現になる。

新しい社会科の定義の構成

2つの修正点

・「政治を行わせる」
→ニュアンス残す

・「全ての国民」
→少数派も国民に含まれるということを強調した表現に

＋

この定義だと代表者を「操縦する」という選挙のもつ機能がうまく伝わらない可能性がある

政治を行わせる選挙で
選ぶ力を身に付ける教科

↓

「選挙で選ぶ」ではなく
「選挙で査定し選ぶ」

この2つを基に新しい社会科の定義を作り直す！

新しい社会科の定義の構成

（研究者の意図に合わせて）修正すると、、、

「全ての国民の人権を大切にする政治を行う代表者を
選挙で査定し選ぶチカラを身に付ける教科」

定義の修正も少なく、評価基準としての
妥当性を大幅に向上させることができる

Ⅳ、研究の意義と課題―学習者観の転換―

意義

子どもに教科目標を視点に授業を評価させることによって、子どもを実験授業の対象から実験授業の批評者に転換する方法を具体的に提示させる。

課題

子ども授業評価を各学年の年間指導計画に組み込む

通常の授業

今日は「不平等条約」について理解してほしいなー・・・・・・

生徒は実験授業の対象者！

③生徒にテストや課題を提出させることによって評価を行う。

①授業を行う（但し、先生が教えたいことは生徒に対して**定義していない。**）

②授業を受ける

藤瀬論文の授業

今日は「不平等条約」について理解する授業をします！！

生徒は実験授業の批評者！

③生徒に授業の定義の修正を行わせる。

①授業を行う（但し、先生が教えたいことは生徒に対して**定義する。**）

②先生の授業の意図を知った上で授業を受ける

7つの重要センテンス

・従来の授業開発研究は、授業理論の実践的な妥当性は吟味できるが、授業理論の原理的な有効性を吟味できない点で限界があるわけである。（P1）

・価値多元社会に相応しい国家・社会の形成者を育成しようとすれば、日本人や日本国民の価値観に閉ざされた公共性を形成されるのではなく、様々な文化的背景をもつ人々の価値観に開かれた公共性を子どもに形成される必要がある。（P4）

・「論争点の把握」「価値観の分析」「意見の再形成」という3つ段階に即して授業を構成して多元的性秩序観と二元的性秩序観を学習させることにより、性秩序という社会の現実のよりよいあり方を議論させるわけである。（P4）

・この計画に基づいて授業評価を実施すれば、子どもが開かれた公共性の形成という概念に意義を見出しているかどうか確かめることができるため、構築主義社会科学習が教科目標に対して果たす効果の有り様をよりよく分析できよう。（P8）

・「全ての国民の人権を大切にする政治を行う代表者を選挙で査定し選ぶチカラを身に付ける教科」（P15）

・子どもに教科目標を視点に授業を評価させることによって、子どもを実験授業の対象から実験授業の批評者に転換する方法を具体的に提示させる。（P16）

・民主的な国家・社会の形成者をよりよく育成するためには、教師が教科目標に関する知見を占有するのではなく、その知見を子どもと共有することにより社会科の授業を作り実践する必要があるのではないか。（P16）